

SPH-DA09 SPH-DA05

取付説明書

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2012

< KFWZX > < 12C00001 > < CRA4534-B/N >

作業の進めかた

①はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

②接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 <SPH-DA09> 8
- システムの接続 <SPH-DA05> 9
- 電源コードの接続 (1) 10
- 電源コードの接続 (2) 12
- スマートフォンの接続 14

③取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 18
- 本体の取り付け 19
- GPS アンテナの取り付け <SPH-DA05> ... 22
- ハンズフリー用マイクの取り付け 23
- フィルムアンテナの取り付け <SPH-DA09> ... 24

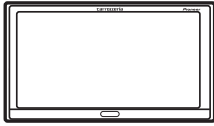
④接続・取り付けが終わったら

- 接続・取り付けの確認を行う 35
- バックカメラの設定を行う 36
- サブウーファーの設定を行う 37
- センサー学習のエラーメッセージ 38

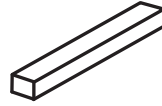
接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認～サブウーファーの設定 (158 35～37 ページ) を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

本体関係



本体 × 1



スペーサー × 1
<SPH-DA09>



トラスネジ (5 mm × 8 mm) × 6



皿ネジ (5 mm × 9 mm) × 6



miniB-CAS カード × 1
<SPH-DA09>

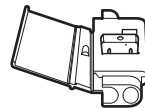


HDMI ケーブルホルダー × 1

接続ケーブル関係



電源コード × 1



U エlementコネクター × 1

ハンズフリー用マイク関係



ハンズフリー用マイク × 1

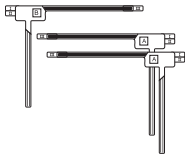


マイククリップ × 1

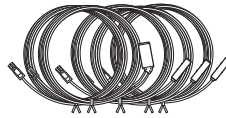


両面テープ (15 mm × 12 mm) × 1

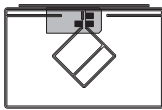
フィルムアンテナ関係 <SPH-DA09>



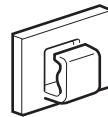
地上デジタルTV (12 セグ) 用
フィルムアンテナ ①×2 ②×1



アンテナケーブル
①・②・③・④ 各1



GPS/ 地上デジタルTV (12 セグ)
複合フィルムアンテナ×1

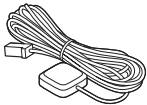


クランパー×9



クリーナークロス×1

GPS アンテナ関係 <SPH-DA05>



GPS アンテナ×1



金属シート×1



クランパー×3



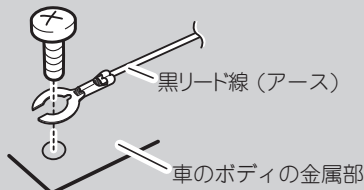
両面テープ×1

接続の前に知ってほしいこと

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



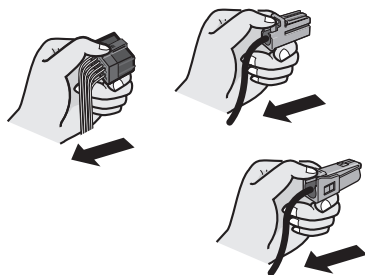
- 本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けないでください。取り付けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの脱着のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。
- スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものは本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコードそれぞれのアンテナコードどうしてもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

電源配線キットを別売しています

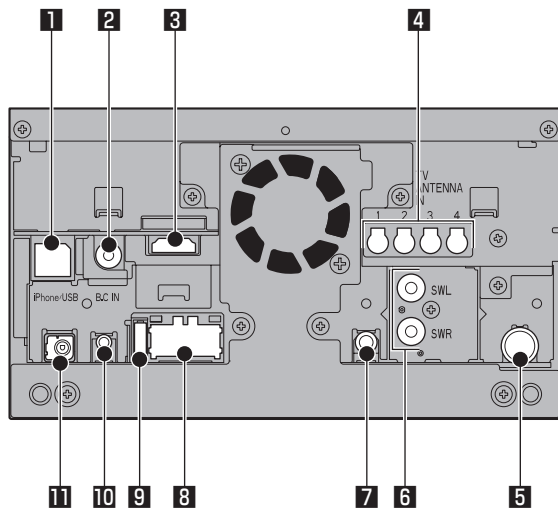
- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線（車速信号入力）は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」（別売）をお使いください。

接続端子の名称と働き

■ SPH-DA09



1 iPhone/USB 接続端子 (黒)

別売の接続ケーブルを使用して、スマートフォンや iPod が接続できます。
(☞ 14～17 ページ)

2 バックカメラ入力端子 (黄)

別売のバックカメラが接続できます。
(☞ 8 ページ)

3 HDMI 接続端子 (黒)

別売の HDMI 接続用ケーブルを使用して、Android™ OS 搭載のスマートフォンが接続できます。
(☞ 15～17 ページ)

4 フィルムアンテナ (地上デジタル TV (12 セグ) 用) 接続端子 (黒)

付属の GPS/ 地上デジタル TV (12 セグ) 複合フィルムアンテナおよび地上デジタル TV (12 セグ) 用フィルムアンテナを接続します。(☞ 8 ページ)

5 FM/AM 用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。
(☞ 8 ページ)

6 サブウーファー出力端子

別売のパワードサブウーファーが接続できます。(☞ 10～11 ページ)

7 ステアリングリモコンアダプター接続端子 (黒)

別売のステアリングリモコンアダプターが接続できます。(☞ 8 ページ)

8 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
(☞ 8、10～13 ページ)

9 ヒューズ (10 A)

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

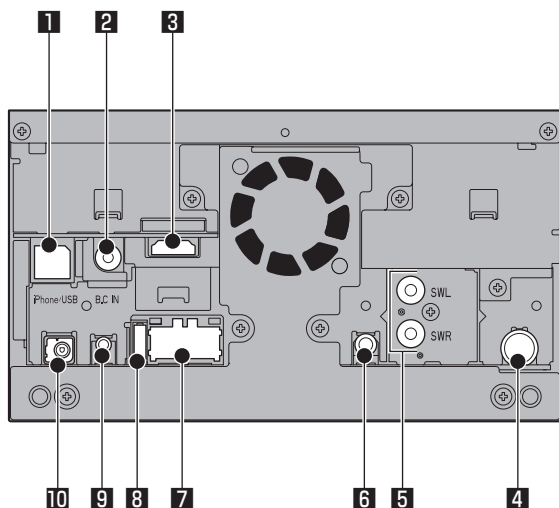
10 ハンズフリー用マイク入力端子 (黒)

付属のハンズフリー用マイクを接続します。
(☞ 8 ページ)

11 フィルムアンテナ (GPS 用) 接続端子 (緑)

付属の GPS/ 地上デジタル TV (12 セグ) 複合フィルムアンテナを接続します。
(☞ 8 ページ)

■ SPH-DA05



1 iPhone/USB 接続端子 (黒)

別売の接続ケーブルを使用して、スマートフォンや iPod が接続できます。
([P.14](#) ~ [P.17](#) ページ)

2 バックカメラ入力端子 (黄)

別売のバックカメラが接続できます。
([P.9](#) ページ)

3 HDMI 接続端子 (黒)

別売の HDMI 接続用ケーブルを使用して、Android OS 搭載のスマートフォンが接続できます。
([P.15](#) ~ [P.17](#) ページ)

4 FM/AM 用アンテナ入力端子

車載のラジオ用アンテナを接続します。
([P.9](#) ページ)

5 サブウーファー出力端子

別売のパワードサブウーファーが接続できます。
([P.9](#) ~ [P.11](#) ページ)

6 ステアリングリモコンアダプター接続端子 (黒)

別売のステアリングリモコンアダプターが接続できます。
([P.9](#) ページ)

7 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
([P.9](#) ~ [P.13](#) ページ)

8 ヒューズ (10 A)

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

9 ハンズフリー用マイク入力端子 (黒)

付属のハンズフリー用マイクを接続します。
([P.9](#) ページ)

10 GPS 用接続端子 (緑)

付属の GPS アンテナを接続します。
([P.9](#) ページ)

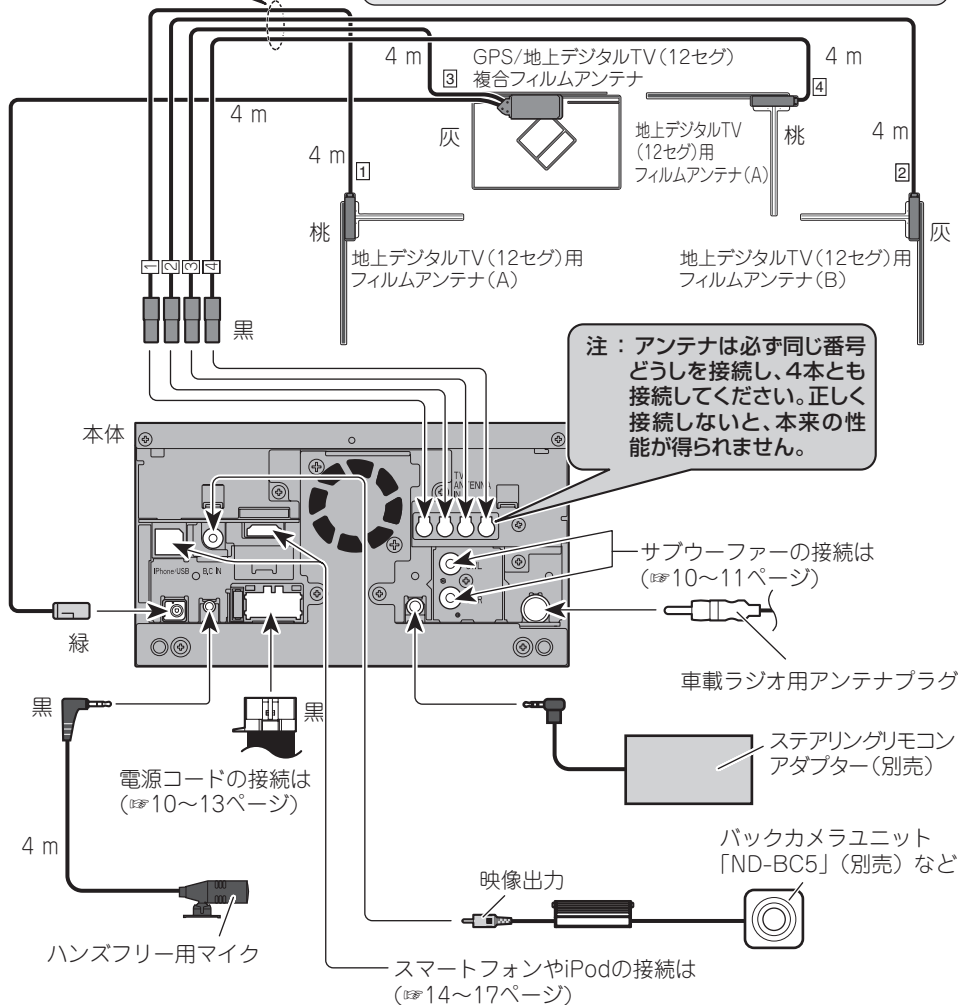


システムの接続 <SPH-DA09>

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

注：他のコードと束ねないでください。

電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売のGPSアンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5m）や、別売の地上デジタルTV用アンテナ（車室外取付用）「AN-GT30」を2セットお使いください。



注：アンテナは必ず同じ番号どうしを接続し、4本とも接続してください。正しく接続しないと、本来の性能が得られません。

メモ

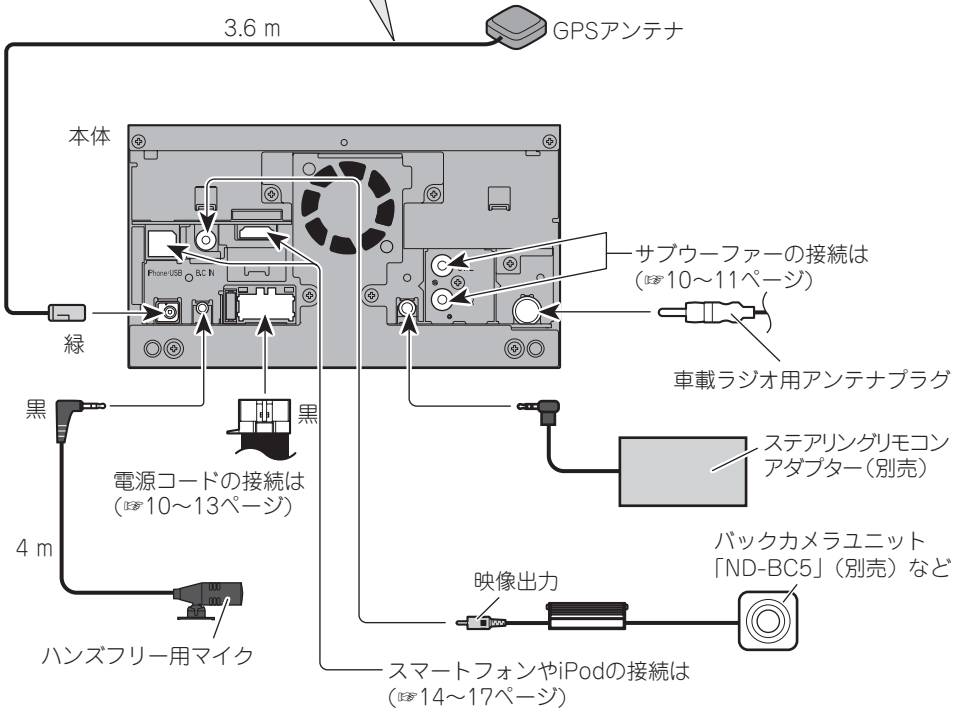
- 本機にバックカメラを接続したときは、バック信号入力線（☞ 12～13 ページ）の接続と、カメラ設定（☞ 36 ページ）が必要です。
- 別売の映像処理対応バックカメラユニット「ND-BC30 II」を接続することもできます。「ND-BC30 II」をお使いになる場合は、「ND-BC30 II」側の操作でカメラ設定（取付角度の調整など）を行う必要があります。詳しくは「ND-BC30 II」の取扱説明書をご覧ください。



システムの接続 <SPH-DA05>

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

長さが足りないときは、別売のGPSアンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5m）または別売のGPSアンテナ延長ケーブル「RD-G34」（3m）をお使いください。



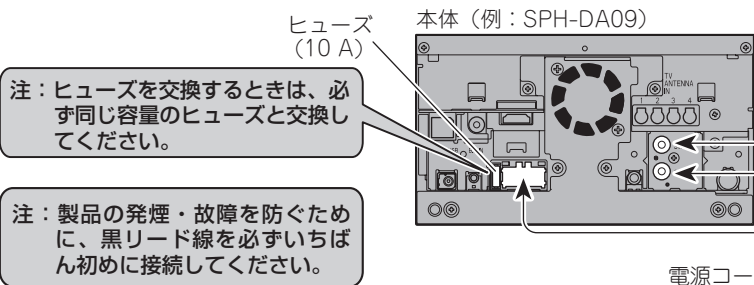
接続のしかた

メモ

- 本機にバックカメラを接続したときは、バック信号入力線（[12～13ページ](#)）の接続と、カメラ設定（[36ページ](#)）が必要です。
- 別売の映像処理対応バックカメラユニット「ND-BC30 II」を接続することもできます。「ND-BC30 II」をお使いになる場合は、「ND-BC30 II」側の操作でカメラ設定（取付角度の調整など）を行う必要があります。詳しくは「ND-BC30 II」の取扱説明書をご覧ください。

電源コードの接続 (1)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けないでください。バッテリー上がりの原因になります。

イルミ電源

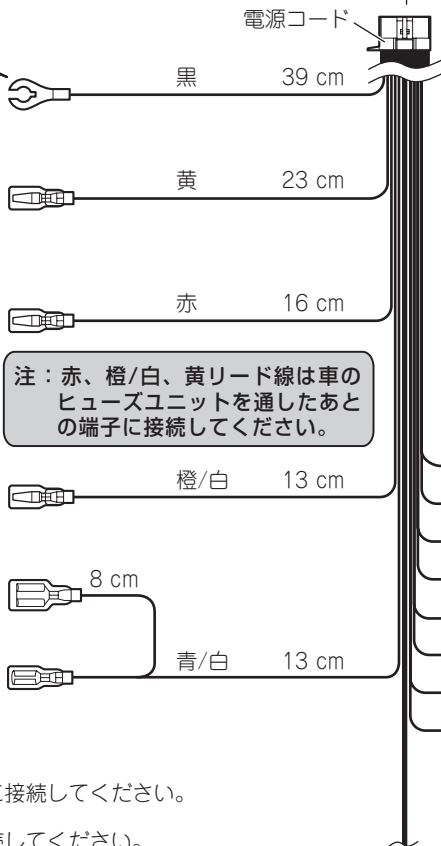
車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

アンテナコントロール/システムコントロール

アンテナや外部アンプをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。)

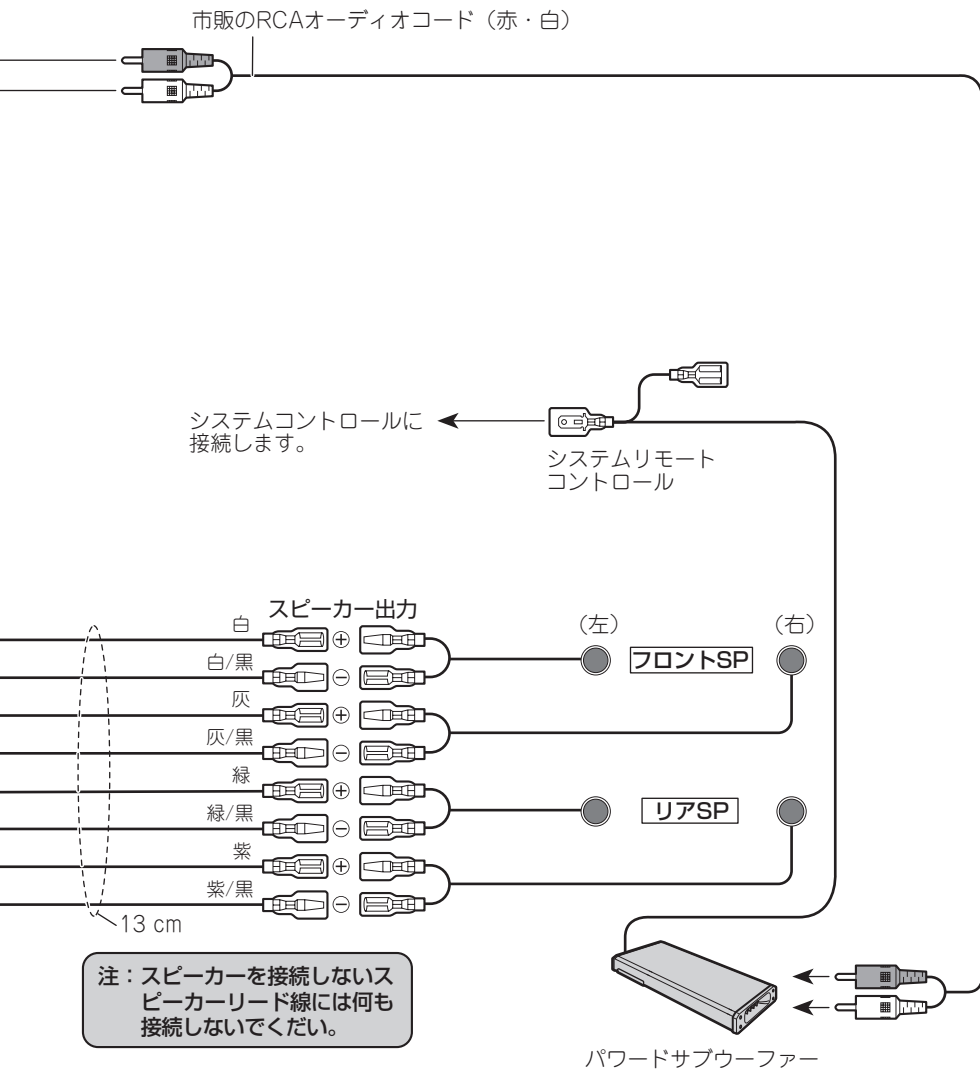
下記の車両については未接続の場合ラジオが受信できない場合がありますので必ず接続してください。(下記以外の場合は、何も接続しないでください。)

- オートアンテナ車の場合*：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車の場合：
車側のアンテナプースターの電源入力端子に接続してください。
- 外部アンプを接続する場合：
外部アンプのシステムリモートコントロール端子に接続してください。



他のリード線の接続は (P.12~13ページ)

※車載のアンテナがオートアンテナの場合、Bluetooth接続されたスマートフォンの発着信時およびAVソースやアプリのONに連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。アンテナを下げる場合は、スマートフォンの使用中止やアプリ、AVソースをOFFにしてください。



メモ

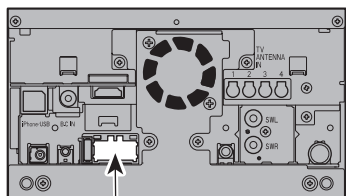
- サブウーファーを接続したときは、サブウーファー設定を行ってください。(P. 37 ページ)



電源コードの接続 (2)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本体 (例: SPH-DA09)



電源コード

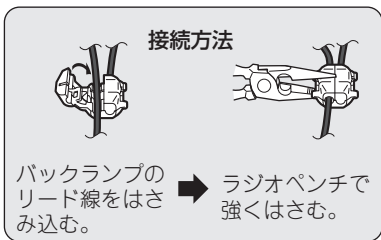
他のリード線の接続は
(※10~11ページ)

バック信号入力

この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。



紫/白 8 m

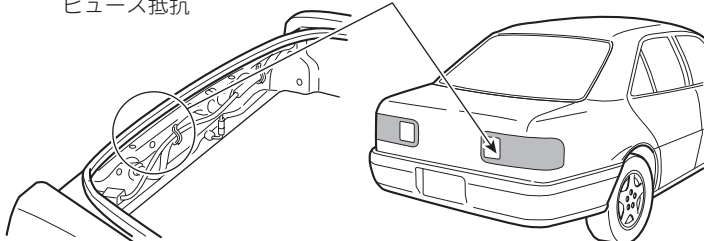
若草色 2 m

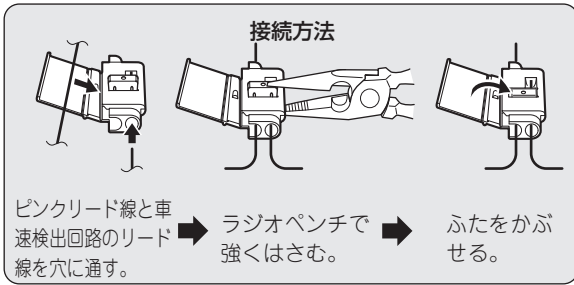
注: 電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

バックランプ(シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。

バックランプの
リード線

ヒューズ抵抗





車のインジェクション
コンピューター

ピンク 2 m

車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
(車の車速検出回路への接続が困難な場合は、
車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続
することもできます。)

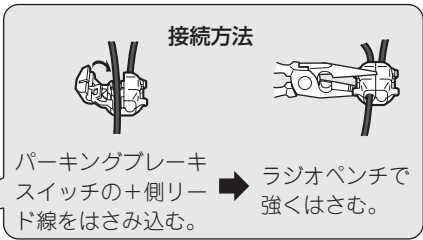
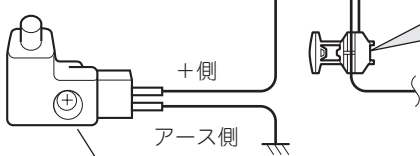
注：必ず付属のUエレメントコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

パーキングブレーキスイッチ

車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの+側リード線に接続してください。

パーキングブレーキスイッチ



パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。



スマートフォンの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

お使いのスマートフォンによって、本機との接続方法やご準備いただく別売ケーブルが異なります。

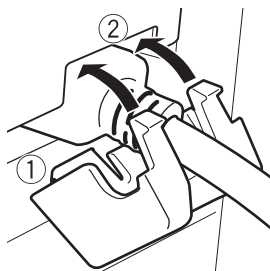
接続上のご注意

- 指定のケーブル以外は使用しないでください。動作不良や、製品の破損・故障の原因となる恐れがあります。

HDMI ケーブルホルダーの使いかた

本機に HDMI ケーブルを接続する場合は、付属の HDMI ケーブルホルダーを使って、HDMI ケーブルが抜けにくいようしっかりと固定してください。

- ① HDMI ケーブルホルダー下側のツメを本機の溝にはめ込む
- ② HDMI ケーブルホルダー上側のツメ 2 つを本機に押し込む
- ③ HDMI ケーブルホルダーが本機に確実に固定されていることを確認する

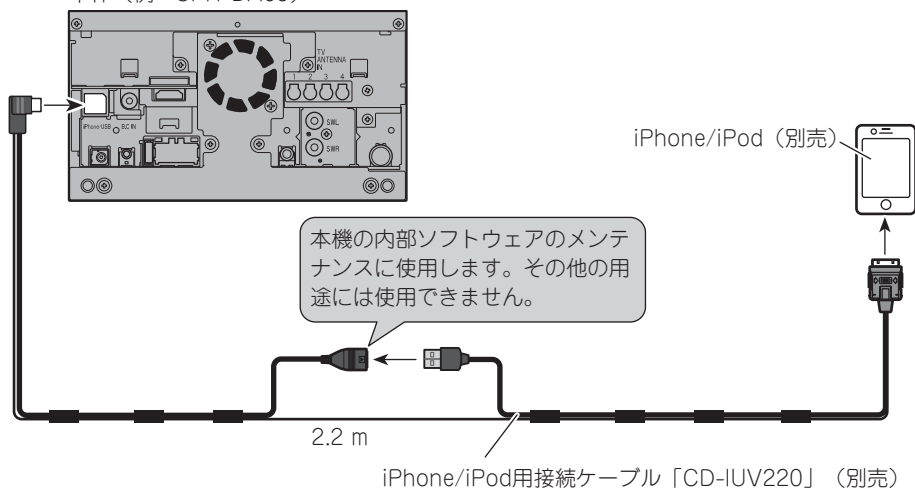


メモ

- HDMI ケーブルホルダーを取り外すときは、上側のツメ 2 つを押し下げながら手前に引いてください。HDMI ケーブルを無理に引っ張って取り外さないでください。

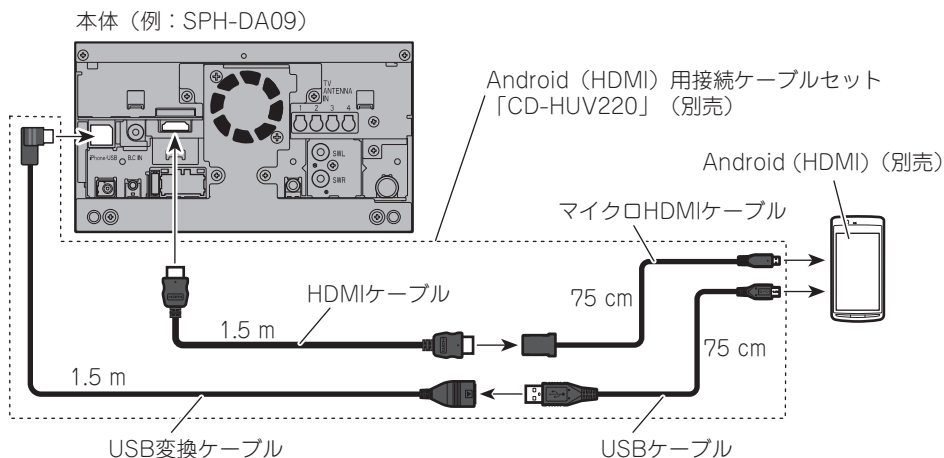
iPhone/iPod を接続する場合

本体（例：SPH-DA09）

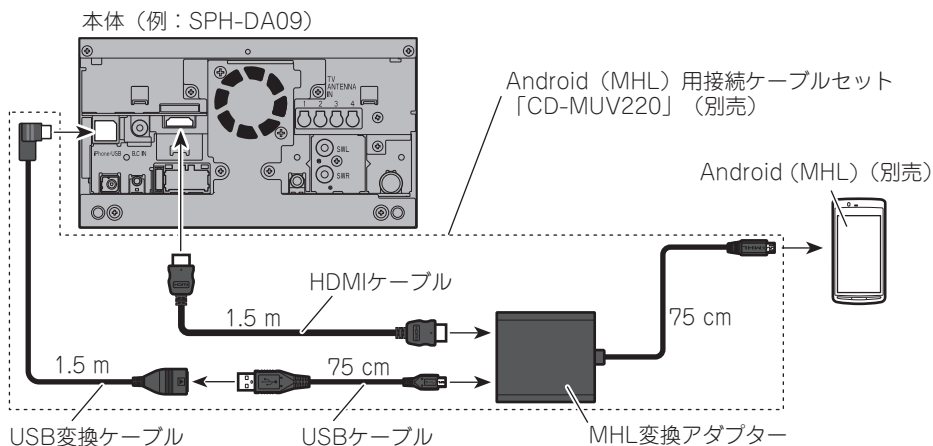


iPhone/iPod用接続ケーブル「CD-IUV220」（別売）

Android (HDMI 端子) を接続する場合



Android (MHL 端子) を接続する場合



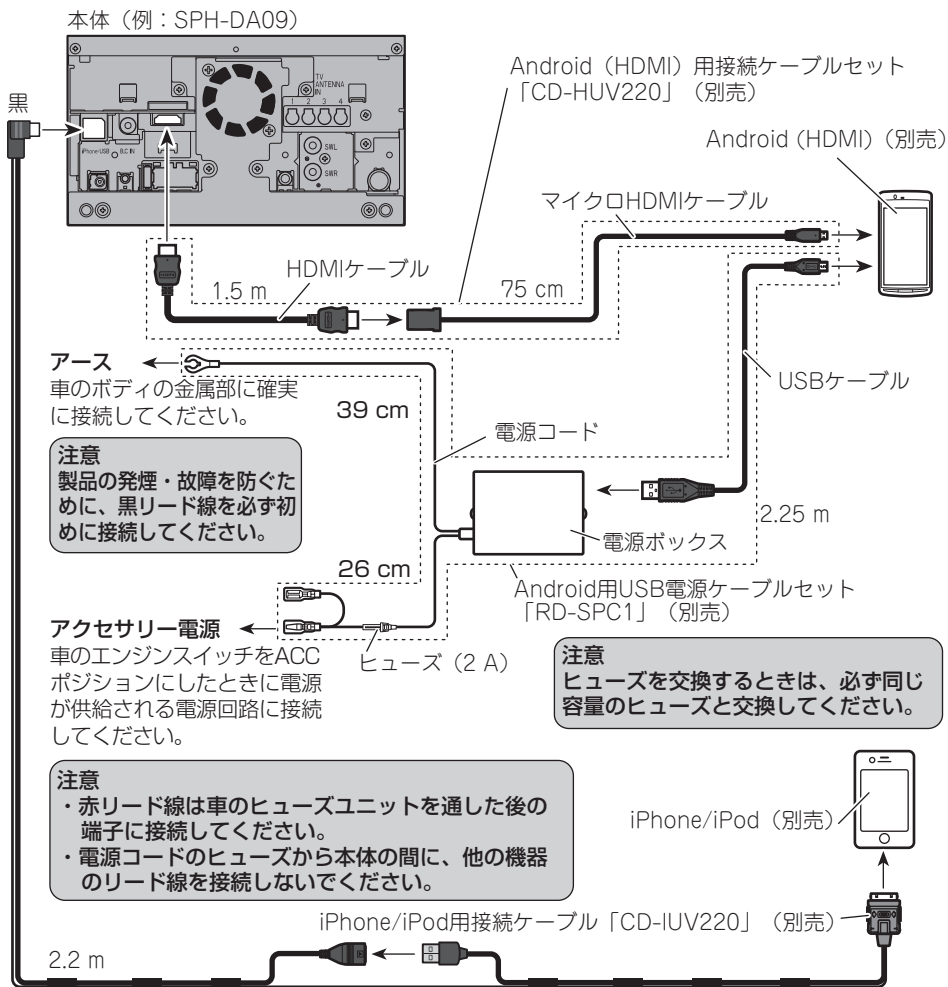
メモ

- HDMI ケーブルを接続するときは、HDMI ケーブルホルダーで確実に固定してください。
- 本機に Android を接続し、本機の操作でアプリを使用したいときは、Bluetooth 接続が必要です。
(※ 『取扱説明書』-「スマートフォンを登録する」)

スマートフォンの接続

つづき 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください

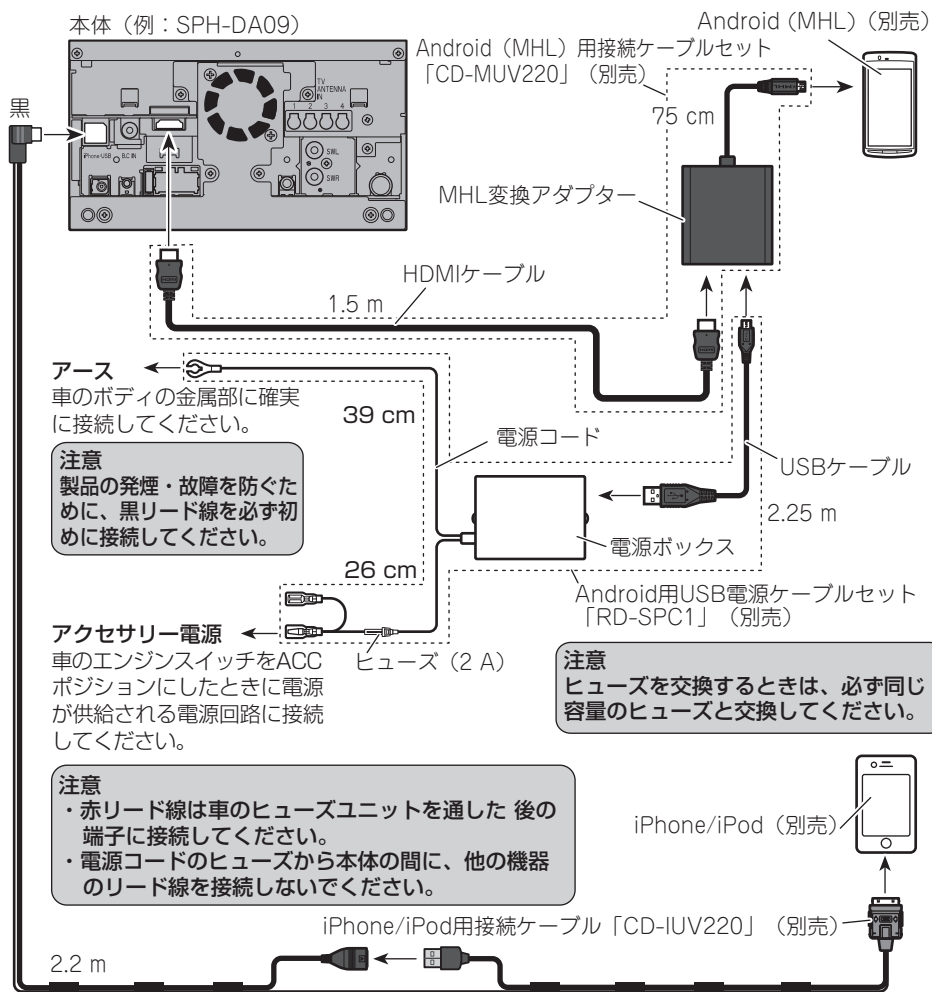
iPhone/iPod と Android (HDMI 端子) を同時接続する場合



メモ

- HDMIケーブルを接続するときは、HDMIケーブルホルダーで確実に固定してください。
- 「RD-SPC1」に付属の取扱説明書も必ずご確認ください。
- 「RD-SPC1」に付属のUSBケーブル(2.25 m)は、「RD-SPC1」専用品のためパソコンなど他の機器では使用しないでください。
- 「CD-HUV220」に付属のUSB変換ケーブルおよびUSBケーブル(75 cm)は、使用しません。
- 本機にAndroidを接続し、本機の操作でアプリを使用したいときは、Bluetooth接続が必要です。
(※ 『取扱説明書』-「スマートフォンを登録する」)

iPhone/iPod と Android (MHL 端子) を同時接続する場合



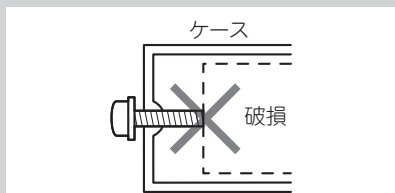
メモ

- HDMIケーブルを接続するときは、HDMIケーブルホルダーで確実に固定してください。
- 「RD-SPC1」に付属の取扱説明書も必ずご確認ください。
- 「RD-SPC1」に付属のUSBケーブル(2.25 m)は、「RD-SPC1」専用品のためパソコンなど他の機器では使用しないでください。
- 「CD-MUV220」に付属のUSB変換ケーブルおよびUSBケーブル(75 cm)は、使用しません。
- 本機にAndroidを接続し、本機の操作でアプリを使用したいときは、Bluetooth接続が必要です。
(※ 「取扱説明書」-「スマートフォンを登録する」)

取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- 両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

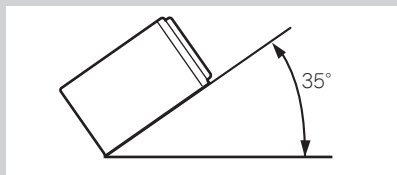
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（※24 ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものは本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

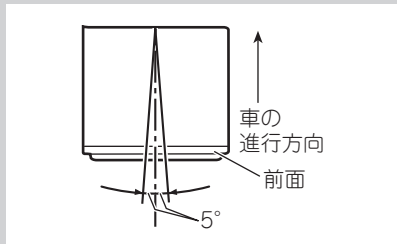
本体の取り付け

取り付け上のご注意

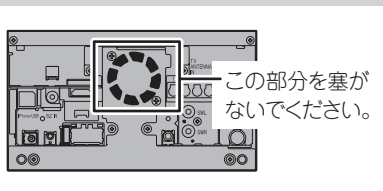
- 本機の性能を十分に発揮するために、できるだけ水平に取り付けてください。また、取り付ける車両の特性上、取り付け角度が傾いてしまう場合は、水平に対して上の傾き 35 度以内で取り付けてください。



左右の傾きは車の進行方向に対して本体の前面が 5 度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して取り付けてください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 「SPH-DA09」の場合、放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置してください。



取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979Ⅱ」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※ 本機に「ADT-N979Ⅱ」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ留めを行い、上下にはテープを貼らないでください。
- 車種や年式によっては、別売のバイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意しておりますので、販売店にご相談ください。

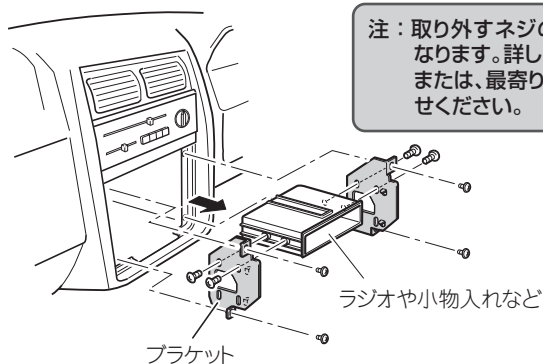


本体の取り付け

つづき

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



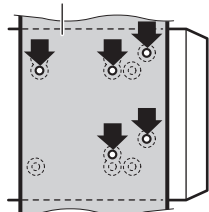
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち3カ所合う位置があります。

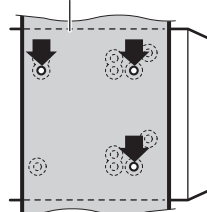
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



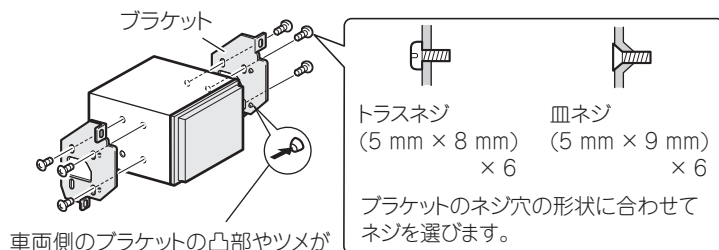
日産車の場合

日産車ブラケット



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ3カ所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元どおり車に取り付けます。



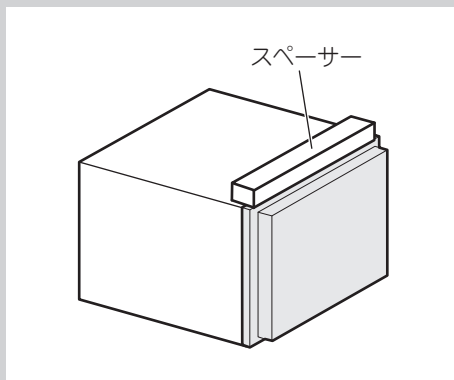
車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

**注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。**

本体取り付け後のご注意 < SPH-DA09 >

本体を取り付けたあと、車両との間にすきまがある場合は、本体にスペーサーを貼ってすきまをふさいでください。なお、スペーサーを貼る手順は、車両によって異なります。



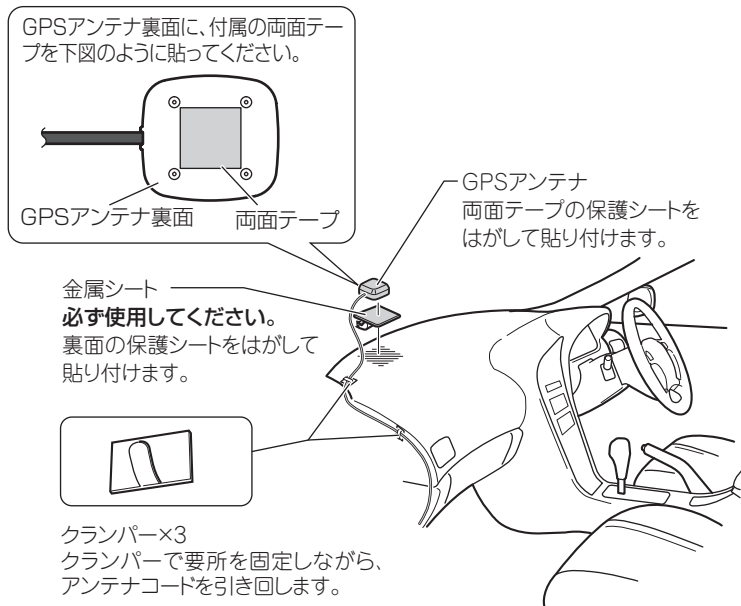
GPSアンテナの取り付け<SPH-DA05>

取り付け上のご注意

- 付属のGPSアンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売のGPSアンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5m）をお使いください。
- GPSアンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPSアンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPSアンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPSアンテナは、本体から30cm以上離して設置してください。また、余ったGPSアンテナコードをまとめて置くとともに、本体から30cm以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPSアンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPSアンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は [取り付け状態画面] (P.35 ページ) を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。





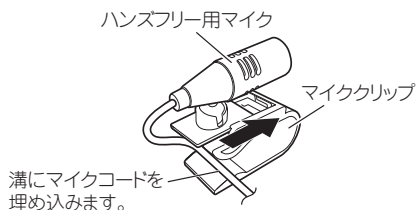
ハンズフリー用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

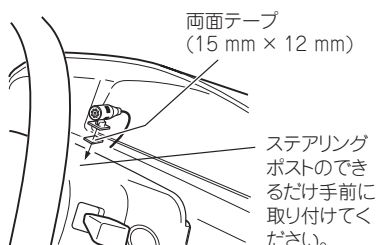
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける



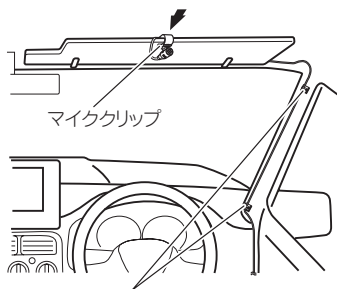
ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける



2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、通話相手側へ音声が届きにくくなります。

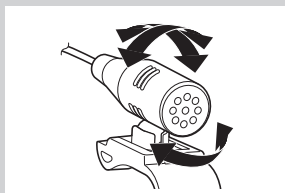


市販のクランパーなどで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



フィルムアンテナの取り付け<SPH-DA09>

取り付け上のご注意

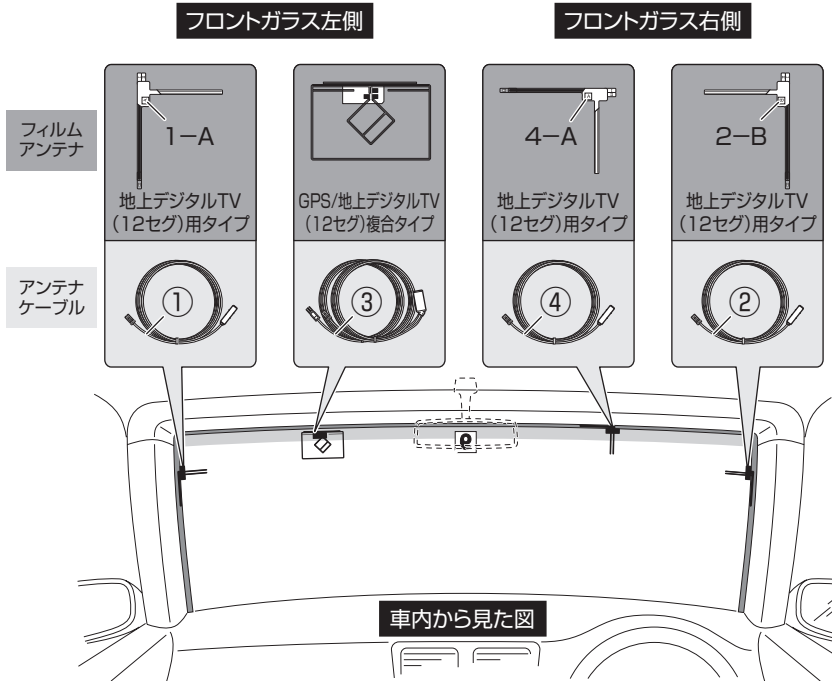
- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
* 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第 29 条第 4 項第 6 号に対する、平成 15 年 9 月 26 日付の運輸省（現、国土交通省）令 第 95 号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- 本書では、フィルムアンテナの取り付け前に車内の内張りを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外せずにフィルムアンテナを取り付ける方法について、詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなることがありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 地上デジタルテレビ放送の電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の地上デジタル TV 用アンテナ（車室外取付用）「AN-GT30」を 2 セットお使いください。
- GPS 衛星の電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ（車室外取付用）「AN-GO50」（5m）をお使いください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮留めして、エレメントとアンテナが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンテナの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチを ON にしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから 10cm 以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる場合は、十分な曲げ角度（半径 15mm 以上）を確保してください。
- 余ったアンテナコードをまとめて置くときは、本体から 30cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。
必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮留めし、アンテナケーブルの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

貼り付け位置について

フィルムアンテナは地上デジタルTV (12セグ) 用タイプ (㊸、㊹) と GPS/地上デジタルTV (12セグ) 複合タイプの2種類、フィルムアンテナケーブルは①、②、③、④の4種類があり、組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。それぞれを組み合わせ下記の位置に貼り付けてください。



取り付けかた



フィルムアンテナの取り付け<SPH-DA09>

つづき

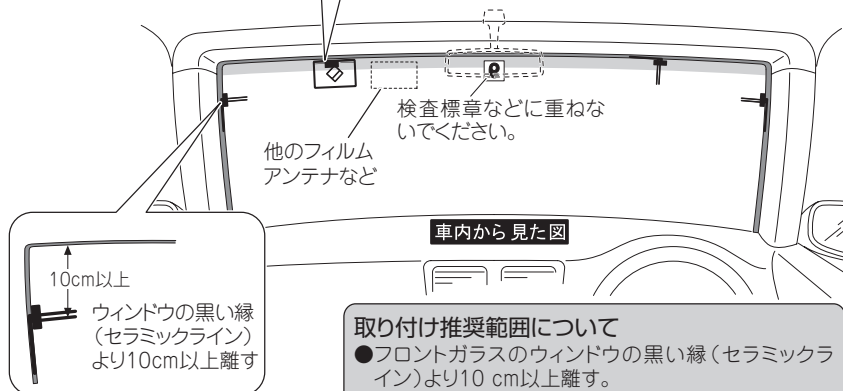
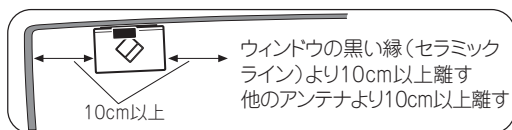
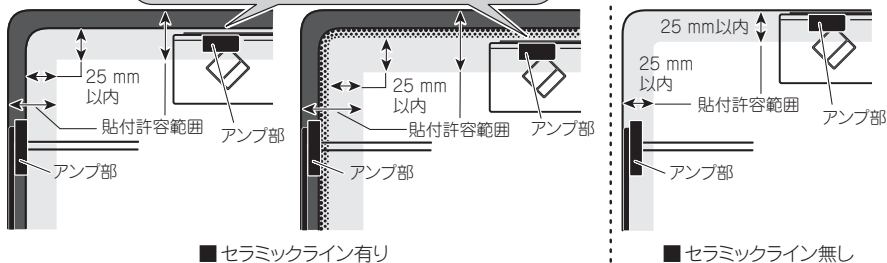
貼り付け位置について (つづき)

⚠️ 必ずお守りください

運転に安全な視界を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

GPS/地上デジタルTV(12セグ)複合フィルムアンテナは、ウィンドウの黒い線(セラミックライン)の上には貼り付けしないでください。



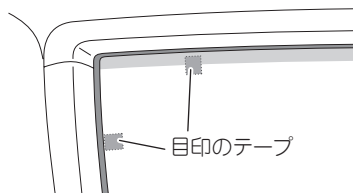
取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウィンドウの黒い線(セラミックライン)より10 cm以上離す。
- 他のアンテナより10 cm以上離す。
- 同梱のフィルムアンテナどうしは1 cm以上離す。

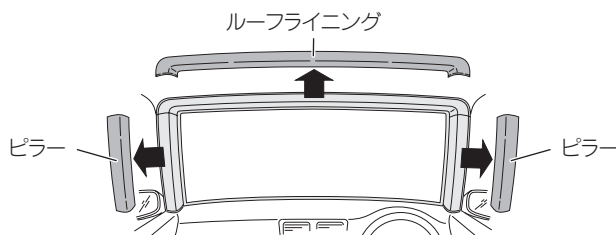
フィルムアンテナ貼り付けの流れ

1 フィルムの仮位置を決める

「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

取り
付け
かた

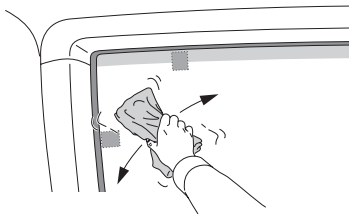


フィルムアンテナの取り付け<SPH-DA09>

つづき

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。



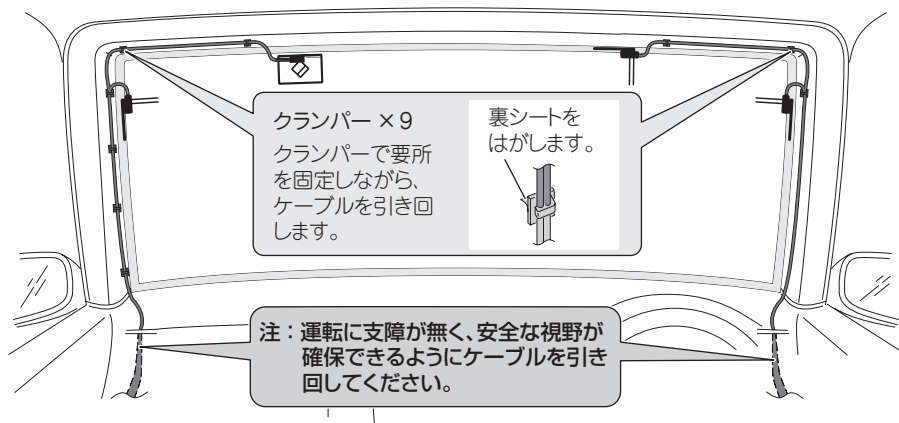
注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 フィルムアンテナを貼り付ける

- 地上デジタル TV (12 セグ) 用フィルムアンテナを貼り付ける (※ 30 ページ)
- GPS/ 地上デジタル TV (12 セグ) 複合フィルムアンテナを貼り付ける (※ 32 ページ)

7 ケーブルを引き回す



注：危険ですので、運転席の足元付近は、配線を引き回さないでください。

8 内張りを元に戻す

注：アンプのケーブル根元に負荷がかからないように注意してください。

フィルムアンテナの取り付け<SPH-DA09>

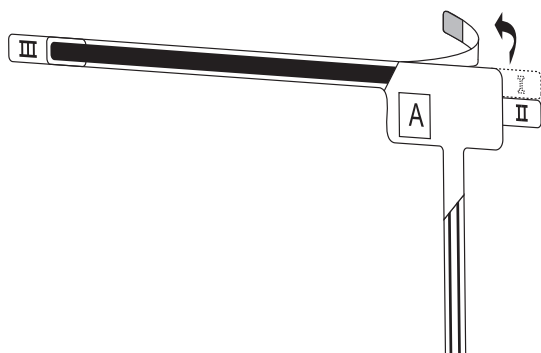
地上デジタルTV（12セグ）用フィルムアンテナを貼り付ける

メモ

- フィルムアンテナは④用で説明しています。

1 セパレーター I をはがす

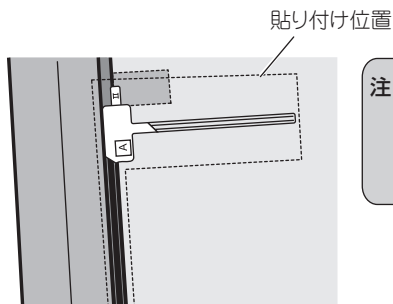
タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



※ セパレーター I をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

2 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはありません。

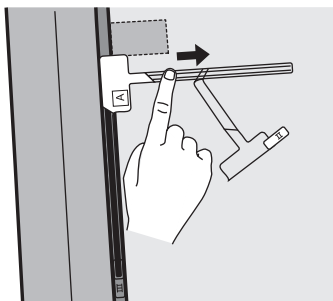


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

3 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

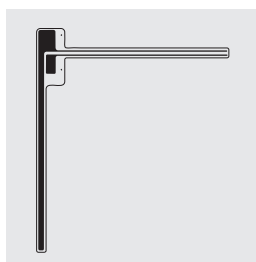
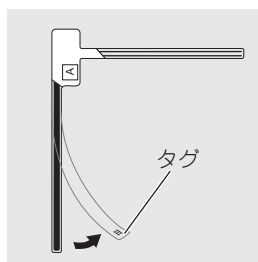
指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。



注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

4 保護フィルムⅢをはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆくりはがします。



エレメントだけが貼り付く

注：保護フィルムⅢをはがした後は、手順6でアンブを貼り付けるまでアンブ貼り付け部に触れないでください。

※ エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

5 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

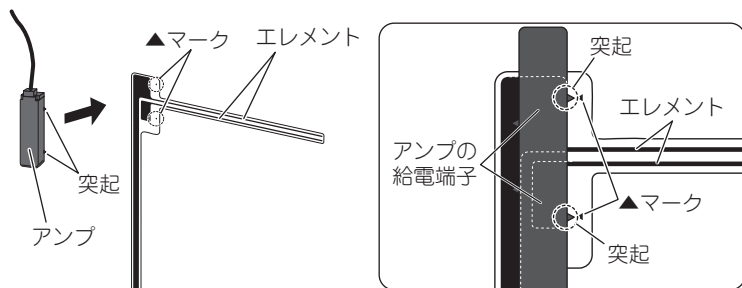


フィルムアンテナの取り付け<SPH-DA09>

つづき

6 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の▲マークと、アンプの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。

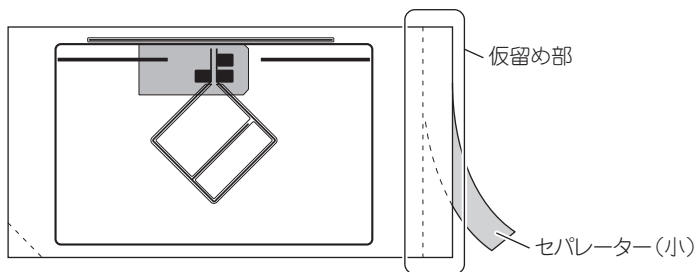


注：フィルムアンテナの▲マークとアンプ部の突起を合わせないと、受信できません。

注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

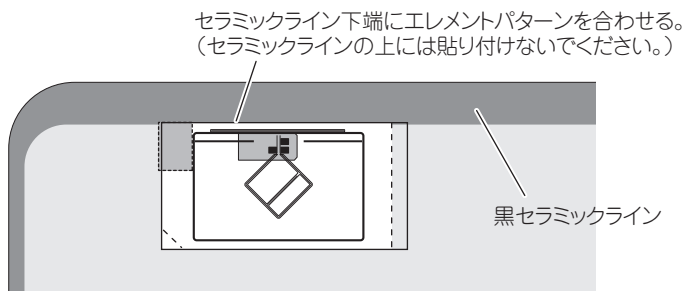
GPS/ 地上デジタル TV (12 セグ) 複合フィルムアンテナを貼り付ける

1 仮留め部のセパレーター (小) をはがす



2 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、仮留め部を貼り付けます。

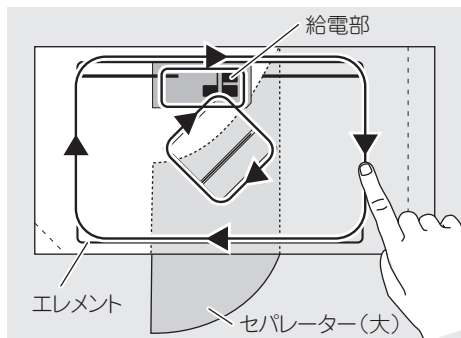


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。
また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

- ※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

3 セパレーター（大）をはがしながら、エレメントを貼り付ける

下図のように、指でエレメントをガラス面に押しつけながらゆっくりとセパレーター(大)をはがします。



注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

- ※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。
- ※ フィルム・エレメントの糊面には触れないでください。
- ※ エレメントの給電部は念入りに押さえてください。

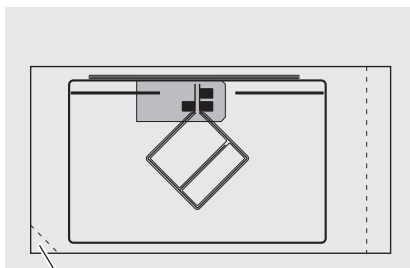


フィルムアンテナの取り付け<SPH-DA09>

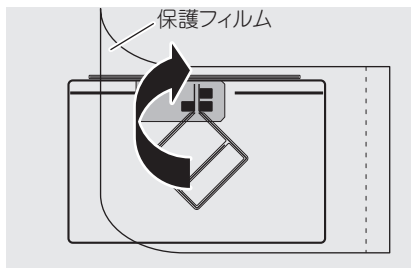
つづき

4 保護フィルムをゆっくりとはがす

保護フィルムはがし用ハーフカット部を持ち、エレメントがガラス面に貼り付いている事を確認しながら、保護フィルムをゆっくりはがします。



保護フィルムはがし用ハーフカット部



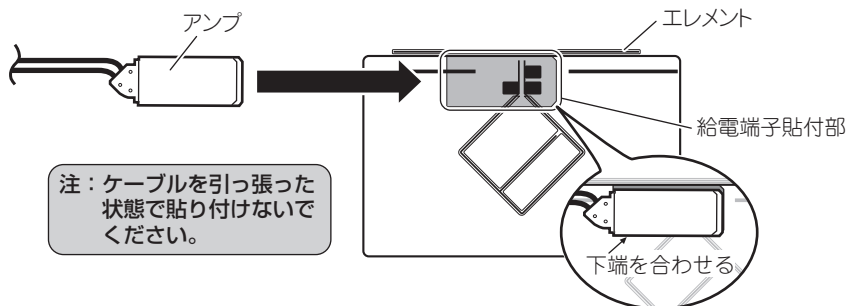
エレメントのみがガラス面へ貼り付きます。

注：保護フィルムをはがした後は、手順5でアンプを貼り付けるまでエレメントの給電端子貼付部に触れないでください。

※ エレメントが保護フィルムと一緒にはがれる場合は、保護フィルムを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

5 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプ保護カバーを取り外してからアンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子貼付部下端と、アンプ下端を下記のように合わせて貼り付けます。



注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

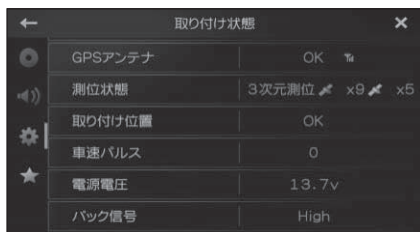
1 車のエンジンをかける

2 ボタンを押す

3 左フリックし、**設定** **取り付け状態** の順にタッチする

フリック操作については、『取扱説明書』をご覧ください。

4 取り付け状態を確認する




取り付け状態	
GPSアンテナ	OK
測位状態	3次元測位 x9 x5
取り付け位置	OK
車速パルス	0
電源電圧	13.7v
バック信号	High

5 取り付け状態を確認したら、 にタッチする

取り付け状態画面の見かた

GPS アンテナ

フィルムアンテナ (GPS) / GPS アンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば [OK]、未接続の場合には [未接続] が表示されます。右側に表示されるアンテナマーク  で GPS の受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で 2 本以上バーが表示されていれば良好です。

測位状態

現在の測位状態 (3次元測位 / 2次元測位 / 未測位) が表示されます。その右側には測位に使われている衛星 (橙色) と受信中の衛星 (黄色) の数が表示されます。3つ以上の衛星の電波を受信すると現在地の測位が可能になります。GPS アンテナマークの本数と測位した衛星の数は、比例しません。

取り付け位置

本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。停車時に [振動許容範囲外] が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付け、停車時に [OK] が表示されるのを確認してください。また走行後に [取付角度許容範囲外] が表示された場合は、本体の取付角度が許容範囲外です。販売店にご相談ください。

車速パルス

車速信号入力 (ピンクリード線) の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると、数字が表示されます。数字は本機が測定したパルス数をあらわしています。パルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速 (時速 5km 程度) で行ってください。

電源電圧

車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に 11 V ~ 15 V の範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差 (± 0.5 V 程度) があるため、この表示は参考値です。

バック信号

バック信号入力 (紫 / 白リード線) の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーを R (リバース) の位置から R (リバース) 以外の位置にすると Low から High、または High から Low に切り換わります。

バックカメラの設定を行う

本機にバックカメラを接続した場合は、カメラ設定を行ってください。

1 ボタンを押す

2 左フリックし、設定 の順にタッチする

フリック操作については、『取扱説明書』をご覧ください。

3 カメラ極性設定 にタッチする

タッチするごとに、次のように切り換わります。
Off → High → Low → Off → …



Off	バックカメラを使用しない場合は、こちらの設定にしてください。
High	シフトレバーをR（リバース）に切り換えたときに、取り付け状態画面（ <small>※</small> 35ページ）の「バック信号」の表示が [High] になる車両の場合は、こちらの設定にしてください。
Low	シフトレバーをR（リバース）に切り換えたときに、取り付け状態画面（ <small>※</small> 35ページ）の「バック信号」の表示が [Low] になる車両の場合は、こちらの設定にしてください。

4 設定したら、 にタッチする



サブウーファーの設定を行う

本機にサブウーファーを接続したときは、サブウーファーを固定したあと、車の窓やドアを閉めた状態でサブウーファーの設定を行ってください。

1 低音を含む音楽を再生する

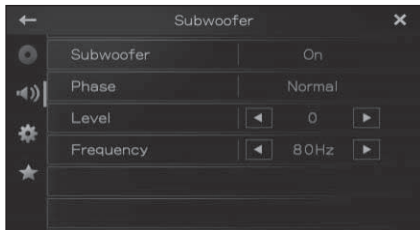
2 ボタンを押す

3 左フリックし、設定 Subwoofer の順にタッチする

フリック操作については、『取扱説明書』をご覧ください。

4 Subwoofer にタッチする

タッチすることにより、On と Off が切り換わります。



On	サブウーファーを使用する場合は、こちらの設定にしてください。
Off	サブウーファーを使用しない場合は、こちらの設定にしてください。

5 Phase にタッチする

タッチすることにより、Normal と Reverse が切り換わります。

Normal	フロント/リアスピーカーを同じ位相で出力する場合は、こちらの設定にしてください。
Reverse	フロント/リアスピーカーを逆の位相で出力する場合は、こちらの設定にしてください。

6 Level の / にタッチする

- 24dB ~ + 6dB の間で、1dB ごとに調節することができます。

7 Frequency の / にタッチする

50Hz、63Hz、80Hz、100Hz、125Hz から設定します。

8 各項目を設定したら、 にタッチする

接続・取り付けが終わったら



センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に 3D ハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- **【車速信号線が外れました。接続を確認してください。】**
- **【車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。】**
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- **【3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
「本体の取り付け（※ 19 ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。
- **【車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。】**
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3D ハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- **【測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
本体の故障、劣化等が考えられます。販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。
- **【GPS アンテナが接続されていません。接続を確認してください。】**
- **【GPS アンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
GPS/ 地上デジタル TV（12 セグ）複合フィルムアンテナまたは GPS アンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。
- **【内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。】**
内蔵のセンサーの故障が考えられます。販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。
- **【取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。】**
本体の取り付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。

